2010年度

科目名	死生学				
担当教員	西岡　秀爾				
配当	薬学2			コード	53040
開期	前期	講時	金曜日3限	単位数	2
授業テーマ	【必修】 「死」を見据えることにより、より充実した「生」を省察すること。				
目的と概要	死生学は、「死」をタブー視し、非日常的なものとして遠ざける現代社会において、「死」に対する心構えという観点からいかによく生きるかを問い直そうというものである。生きとし生けるもの全てに訪れる「死」とどのように向き合い、関わっていくべきかを探究するのが死生学の課題である。「死」は決して個人一人の問題ではなく、人と人との関係性において共有されるべき問題である。受講者各自が、薬学従事者として「死」にまつわる問題意識をより一層高める機会となることを目指したい。				
成績評価法	筆記試験ならびに授業時のレポートの成績により評価する。 また、平常点を重視する。 (定期試験50点、レポート10点、平常点40点）				
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。 テーマに即したビデオや新聞も適宜紹介する。				
参考書	死生学 第1・2・3集 / 日野原重明・山本俊一 編 / 技術出版 死生学とはなにか / 平山正実 著 / 日本評論社 死への準備教育 第1・2・3巻 / A・デーケン 著 / メヂカルフレンド社　 等 （適宜紹介する。）				
履修に当たっての注意・助言					

講義計画

回数	授業形態	授業内容	到達目標（SBO）	ｺｱｶﾘ対応番号	学習領域
1	講義	死生学とは何か (歴史的背景、成立)	1. 死生学の歴史的背景と成立を概説できる。	独自	知識
			2. 死生学の研究分野、研究方法、研究対象を説明できる。	独自	知識
			3. 死生学と生命倫理学の違いを説明できる。	独自	知識
2	講義	哲学と死 (古代哲学、実存主義哲学)	1. 古代哲学における死の概念を説明できる。	独自	知識
			2. 実存主義哲学における死の概念を説明できる。	独自	知識
			3. 日本における死の概念を説明できる。	A(1)	知識
			4. 人称による死の概念の相違、文化・習慣・環境による死の概念の相違を説明できる。	A(3)	知識
3	講義	宗教と死 (キリスト教の視座、仏教の視座、宗教に学ぶ智慧)	1. キリスト教の死生観を説明できる。	独自	知識
			2. （日本）仏教の死生観を説明できる。	独自	知識
			3. 死を宗教的視座から説明できる。	独自	知識
			4. 宗教による死の概念の相違を把握し、尊重することができる。	A(3)	態度
4	講義	教育と死 (デス・エデュケーション、死の準備教育、いのちの教育)	1. デス・エデュケーションの歴史的背景と成立を概説できる。	独自	知識
			2. デス・エデュケーションの目標を概説できる。	独自	知識
			3. 患者の死生観に基づいた（人間性豊かな）ケアとは何かを説明できる。	A(2)	知識

5	講義	医療と死 （予防治療、延命治療、終末期医療、尊厳死）	1. 死の臨床における医療従事者のあり方を討議できる。	A(2)	態度
			2. 死の臨床における医療従事者の具体的援助方法について説明できる。	A(2)	知識
			3. 患者ならびに患者家族の心理状態を把握し、配慮することができる。	A(3)	態度
			4. チーム医療の重要性を把握し、協調的かつ柔軟な態度の必要性を概説できる。	A(3)	知識
6	講義	現代の死 （自宅死から病院死へ）	1. 医療の進歩による臨終期の変遷を説明できる。	A(1)	知識
			2. 患者とその家族の意思の相違、理想と現実の相違を説明できる。	独自	知識
			3. 自宅死ならびに病院死の各々の問題点を説明できる。	独自	知識
7	講義	二つの死 （「他者の死（二人称、三人称の死）」と「自己の死（一人称の死）」）	1. 一人称の死、二人称の死、三人称の死の相違を説明できる。	A(3)	知識
			2. 医療従事者として手助けできる部分とできない部分を討議し、心構えを身につける。	A(2)	態度
			3.三人称の死を通して、二人称の死、さらには一人称の死を自覚し、医療従事者としての心構えを身につける。	独自	態度
8	講義	生と死①　死刑制度 （死刑のある国・日本）	1.世界ならびに日本における死刑の歴史、現状、そして問題点を説明できる。	独自	知識
			2.死刑存置と死刑廃止の主たる根拠を列挙することができる。	独自	知識
			3.死刑制度の是非を討議することができる。	独自	態度
			4.対立意見を否定することなく尊重し、寛容的態度で討議することができる。	A(3)	態度
9	講義	生と死②　死別悲嘆 （死にゆく者と遺される者、グリーフとグリーフケア）	1.グリーフ、グリーフワーク、グリーフケアを説明できる。	独自	知識
			2.グリーフワーク（死別悲嘆）の過程を概説することができる。	A(3)	知識
			3.死別による遺族の心理状況を把握し、配慮することができる。	A(3)	態度
			4.自己の能力の限界を認識し、チームワークで援助することの必要性を概説できる。	A(3)	態度
10	講義	生と死③　葬送儀礼 （死者と生者の関わり、お葬式、お墓）	1.日本における葬儀の変遷を説明できる。	独自	知識
			2.現代の葬儀（家族葬、自然葬、樹木葬など）の多様性を把握し、柔軟な姿勢を身につける。	A(3)	態度
			3.一人称ならびに二人称の死を想定し、然るべき死生観を身につける。	独自	態度
11	講義	死生学の応用① 自殺予防への応用 （関係のなかで生きる〈いのち〉）	1.日本における自殺の現状を把握し、その対応を討議することができる。	独自	知識
			2.自殺に関する誤解と事実を概説することができる。	独自	知識
			3.精神疾患と自殺の関係を説明することができる。	A(3)	知識
			4.自殺の予防と対策を討議することができる。	A(3)	態度

12	講義	死生学の応用② 医療現場への応用Ⅰ (告知、自己決定権、消極的安楽死)	1.人によって死生観、価値観、人生観が異なることを理解し、柔軟に対応できる姿勢を身につける。	A(3)	態度
			2.患者のQOLを高める関わり方(cure、care)を説明できる。	A(3)	知識
			3.告知の現状と課題を概説できる。	独自	知識
			4.インフォームド・コンセントの重要性を説明できる。	A(2)	知識
13	講義	死生学の応用③ 医療現場への応用Ⅱ (信頼関係、関係存在、コミュニケーション)	1.対話の重要性を説明できる。	A(3)	知識
			2.傾聴、共感、ただそばにいること(not doing but being)の重要性を説明できる。	A(3)	知識
			3.ケース・バイ・ケースの重要性を把握し、柔軟に対応できるよう姿勢を身につける。	A(3)	態度
			4.専門性と人間性を兼ね備えた医療従事者として活動できるよう心掛ける。	A(3)	態度
14	講義	死生学の応用④ 家族関係への応用 (自己の死生観の確立、リビング・ウィル)	1.自己の「死」を見据えることにより、より充実した「生」を心掛ける。	A(2)	態度
			2.自分の家族や身近な人たちと「生」や「死」について(臓器移植、延命治療、リビング・ウィル)考える機会を設ける。	独自	態度
15	講義	まとめ 死生学の課題と展開 (「Death Studies」から「Death and Life Studies」へ)	1.死生学の限界と課題を概説できる。	独自	知識
			2.死生学の展望を概説できる。	独自	知識
			3.死生学を生涯学習として把握できる。	A(2)	態度

授業方法

一般目標	学習方法	場所	教員数(補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
A(1) A(2) A(3)	講義	講義室	1(0)	配布資料、ビデオ、新聞	90分×15